

情報システム構造を設計

私の責務は企業全体を支える情報システムサービスを提供し続けること。キーワードは「安定」。情報システムを堅牢な構造として設計し、安定稼働できる環境を整える。万一の障害に備え代替手段や対応を事前に計画しておくことも重要だ。

もうひとつのキーワードは「変革」。堅牢性だけでなく、将来の経営方針や環境の変遷に備えた柔軟な構造にすることも求められる。この「安定」と「変革」という一見矛盾した要求を両立させ、情報システムの構

凛としていきる

理系女性の挑戦

「安定」と「変革」を両立



造を設計するのが私の仕事だ。ITアーキテクトと呼ばれる専門職でありながら守備範囲は広く、経験の蓄積が生きる職種でもある。キャリアの原点を振り返ると、地方の高校生だった私は、将来、

技術に関わる仕事で長く働きたいと考えていた。当時、耳慣れないシステムエンジニア(SE)になりたいと担任に伝えたら、ピカイチの科学的センスを持つているわけでないし、女性には難しいのではとの回答。

究では定理の自動証明に取り組みコンピューターへの興味を高めていった。入社後は念願のSEを目指し、ITの進歩に合わせ変化に富んだ経験を積めた幸運もあり、想像より長くこの仕事に携わってきた。まるで計画通りのキャリアのようだが、実際には思い込みと偶然、楽観主義からなる不器用なものだ。

こうありたいという思いを気長に持つていけば、いつか道は拓けていくように思う。リケジョの看板にもとらわれすぎないほうがよい。いまは「変革」を興すためのITロードマップを描く仕事に取り組んでいる。変革には発想のダイバーシティが重要だ。取りまとめには苦勞も多いが、得意分野も考えも異なる各国混成メンバーのチームから、変革の種

い。理系・文系という二分法に収まらないところに面白い仕事は多い。論理の先を想像する力も大切だ。また、いつからでも学ぶことはできる。経営やインベシジョンについて考えたいと働きながら大学院に通い、技術経営(MOT)を修めたことは視点を養える上で役立った。

が生まれると信じている。企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF) (火曜日に掲載)

それでも何とかなるだろうと理数コースに進み、大学で数学を専攻。卒業研

の仲間たち

「火曜日に掲載」

△



△